

## 精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 諸外国の精神保健医療福祉政策に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 イタリア ————— ケネディ大統領教書(1963年)
- 2 アメリカ ————— 法律180号(バザーリア法)(1978年)
- 3 ニュージーランド — 国民保健サービス及びコミュニティケア法(1990年)
- 4 韓国 ————— 精神保健法(1995年)
- 5 イギリス ————— ブループリント(1998年)

問題 37 次のうち、2010年(平成22年)に改正された精神保健福祉士法の第2条に新たに加えられた内容として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会復帰に関する相談
- 2 地域相談支援の利用に関する相談
- 3 就労支援に関する相談
- 4 虐待に関する相談
- 5 社会経済活動への参加に関する相談

問題 38 次のうち、ICIDH(国際障害分類)からICF(国際生活機能分類)への改定に際して重視された内容として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 構成要素間の相互作用
- 2 各疾病の諸帰結
- 3 障害を個人の次元でとらえる視点
- 4 福祉的サービスの必要性
- 5 環境因子の影響

**問題 39** 障害者就業・生活支援センターに勤務する J 精神保健福祉士は、公共職業安定所(ハローワーク)の K 担当官から、就職を希望するうつ病の L さん(33 歳, 男性)の就労相談を依頼された。L さんは U 就労移行支援事業所を利用しているが、何度紹介しても就職に結びつかないとのことであった。J 精神保健福祉士は関係者と連携して支援することとし、L さんの意向を確認した上で、精神障害者雇用トータルサポーター、U 就労移行支援事業所の就労支援員、主治医とケアカンファレンスを行った。

次の記述のうち、J 精神保健福祉士が行うケアカンファレンスの進め方として、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 それぞれの専門用語を使い、領域の違いが明らかになるようにした。
- 2 主治医から治療経過、家族構成、異性関係、財産状況を話してもらった。
- 3 共有した方針に基づいて、それぞれの専門領域における役割を明確にした。
- 4 J 精神保健福祉士の意向に沿って、それぞれが支援を行うこととした。
- 5 ケアカンファレンスの結果を K 担当官に報告し、了承を得た。

**問題 40** 精神科医療機関におけるリハビリテーションに関する次の記述のうち、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 発病後間もない時期の患者に対しては、リハビリテーションの実施計画を作成することよりも障害年金の取得を優先させる。
- 2 入院後間もない時期の患者に対しては、リハビリテーションの開始について、本人の希望よりも客観的な必要性を優先させる。
- 3 急性症状消退後間もない患者に対しては、時間を限定した個人プログラムよりも多人数が参加する決められたプログラムに参加することを優先させる。
- 4 精神療養病棟に入院中の患者に対しては、就労移行のためのプログラムよりも日常生活の質の改善へ向けたプログラムを優先させる。
- 5 施設症(institutionalism)の状態の患者に対しては、リハビリテーションよりも向精神薬による薬物療法を優先させる。

問題 41 精神科デイ・ケアの進め方に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 擬似的な社会経験による回復を目指しているので、個別の対応は控えて集団場面に集中できるようにする。
- 2 グループの凝集性を高めてメンバーの仲間意識を形成することで、永続的なグループ活動を目指す。
- 3 退院促進・地域移行の機能を強化するため、入院後速やかに参加を促しプログラムを開始する。
- 4 メンバーの社会関係の広がりを目指し、地域資源の活用を視野に入れた支援を展開する。
- 5 地域における生活環境を整備するため、精神保健医療福祉施策の改善に向けた意見集約を行う。

問題 42 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うソーシャルワークの展開として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 インテークでは、援助についての契約を結ぶ。
- 2 アセスメントでは、ニーズを明確にするための評価を行う。
- 3 プランニングでは、精神疾患別に区分することを優先する。
- 4 インターベンションでは、課題の達成状況を振り返る。
- 5 モニタリングでは、相談援助活動の効果を最終的に評価する。

問題 43 精神保健福祉士が行う面接技法に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 要約(summarization) —— 利用者のはっきりしない考えや感情を言葉で表現する。
- 2 言い換え(paraphrase) —— 利用者の話に関心をもって聴いていることを伝える。
- 3 直面化(confrontation) —— 利用者が話した内容の矛盾点を見定めて指摘する。
- 4 励まし(encouraging) —— 利用者が述べた内容を、簡潔に別の言葉を使って返す。
- 5 明確化(clarification) —— 利用者が語る内容や気持ちを整理してまとめる。

問題 44 ある朝、デイケアメンバーのMさん、Aさんの二人がスタッフルームを訪れ、「昨日、全体ミーティングの時、みんなで遊園地に行こうと提案したら、Bさんたちが遊びの計画はダメだと言った。僕たちの意見に賛成した人たちもBさんの迫力に負けたみたいで何も言えなかった。そんなミーティングだったら僕たちはもう出ません」とC精神保健福祉士に話した。C精神保健福祉士は、「そうでしたね。昨日は時間の制約があって十分に意見交換ができませんでしたね。次回の全体ミーティングで、もう一度お二人の提案の趣旨を話し、その上でBさんたちの意見も聞いてみましょうよ」と話した。

次のうち、C精神保健福祉士が次回の全体ミーティングで用いるグループワークの原則として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 参加の原則
- 2 個別化の原則
- 3 制限の原則
- 4 葛藤解決の原則
- 5 受容の原則

**問題 45** D精神保健福祉士は、精神科医療機関に入職以来、精神療養病棟に4年間勤務し、統合失調症の患者を担当していた。今回、デイ・ケア部門に異動し、特にうつ病患者の復職支援を中心とした業務を担うこととなった。異動後、うつ病への支援と早期復職を求める企業側の意向との調整で、様々な悩みや不安を抱えることとなり、上司のE精神保健福祉士(経験20年)に相談した。

次の記述のうち、この相談を受けたE精神保健福祉士がD精神保健福祉士を支えるために企画したスーパービジョンとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 社会人として果たさなければならない責務について研修を受けさせる。
- 2 復職先企業側の職員を含めたグループスーパービジョンを実施する。
- 3 同期の職員でのピアスーパービジョンを実施する。
- 4 同期の精神保健福祉士によるライブスーパービジョンを実施する。
- 5 置かれている状況や課題の言語化を通して整理できるようにさせる。

**問題 46** 包括型地域生活支援プログラム(ACT)に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 就労支援は、利用1年後を目安として開始する。
- 2 危機介入、リハビリテーション、家族支援などのサービスがある。
- 3 精神保健福祉士は生活支援を担当するなど、職種ごとの役割を明確にする。
- 4 チームスタッフ一人当たりの対象者数は、10～12名程度までとされている。
- 5 生活能力や症状に関係なく、本人の希望があれば利用対象とする。

**問題 47** 地域活動支援センターに勤務するF精神保健福祉士は、近隣にある小学校の教諭から、「総合的な学習の時間」を使って精神保健福祉を学習の題材にした福祉教育の授業を実施してほしいとの依頼を受けた。対象学年は6年生である。さっそくF精神保健福祉士は、小学校の教諭、地域活動支援センターの利用者、同僚の精神保健福祉士たちと話し合いの場をもち、授業の目的や内容について協議した。その結果、講義形式だけでなく、体験型の授業を取り入れることにした。

次の記述のうち、この福祉教育で実施する体験型の授業として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 児童が精神科病院へ出向いてコーラスを披露する。
- 2 児童に統合失調症の症状の疑似体験をさせる。
- 3 児童と精神障害者でソフトバレーボールの練習をする。
- 4 児童が応援メッセージの手紙を送る。
- 5 児童が昼食に手作り弁当を提供する。

**問題 48** 地域ネットワークに関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 フォーマルな社会資源やインフォーマルな社会資源で重層的に形成される。
- 2 地域福祉計画を策定することが義務づけられている。
- 3 形成されたネットワークは変更なく維持される。
- 4 小学校区を単位とした小地域ネットワーク活動を基本とする。
- 5 地域住民の精神保健福祉への関心を高める。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

### [事 例]

Gさん(33歳, 女性)は, 飲酒しては当たり散らす父親と, 夫の顔色ばかり見てGさんには過干渉な母親に育てられ, 高校卒業後, 実家を離れるためあえて遠方に就職した。23歳で結婚したが, 夫の女性関係がもとで27歳で離婚した。Gさんはその憤りやむなしさから深酒するようになった。そんな時, 両親を早く亡くしたHさんから, 「子どものいる温かい家庭を作ろう」とプロポーズされ, 29歳で再婚し, 仕事を辞めた。31歳の時に長男が生まれたが, Gさんは育児に追われる中で世間から取り残されたように感じ, 寂しさから妊娠中は控えていた飲酒を再開した。次第に昼間から飲酒するようになり, 夕食の支度ができないことが多くなった。Hさんは, 「育児が大切な時に飲酒するのは母親失格」などとGさんを強く責めた。Gさんはきつく言われることが飲酒の原因と言い, Hさんのクレジットカードを使いインターネットで酒を購入して飲酒を続けた。Hさんは, 妻がやり残した長男の世話や家事を代わって行い, 何とかやりくりしてきたが, Gさんの飲酒行動に対してはどう対応すればよいか分からず, 困った末に, 市のJ精神保健福祉士に相談した。(問題 49)

数日後, 長男が1歳半健診を受診しなかったことから, 保健師が家庭を訪問した。Gさんは息苦しかった実家での生活, 家事や育児の負担, 夫に言われるまま退職したことの後悔, 夫が子どものことばかり心配し自分には批判的な態度をとることへの不満, こうした状況を酒で紛らわせていることのつらさなどを語った。また, 「こんな状況では飲酒はやめたくてもやめられない」「最近手は震えや動悸が生じるので, 夫が出勤したらすぐ飲み始める」などと話した。保健師から連絡を受けたJ精神保健福祉士は, Gさん, Hさんに会って悩みを十分に傾聴した上で, Gさんがとるべき改善策について提案した。(問題 50)

GさんはJ精神保健福祉士の提案を受け入れる意向を示し, Hさんも了解した。またその際, Gさんが回復するまでの育児についてHさんが不安を訴えたため, J精神保健福祉士はその間の育児についても提案を行った。(問題 51)

問題 49 次の記述のうち、J精神保健福祉士がHさんの相談を受けて提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Hさん名義のクレジットカードで酒を購入できないようにしてください。
- 2 飲酒許容量を話し合っただけで、その範囲ならGさんを責めないでください。
- 3 時々職場からGさんに電話して、飲酒していないか確認してください。
- 4 帰宅時にGさんが飲酒していたら、直ちに酒を取り上げてください。
- 5 Gさんが飲まなくて済むよう、育児や家事をもっと手伝ってあげてください。

問題 50 次の記述のうち、J精神保健福祉士がGさんに提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 育児不安を解消させるために、育児中の母親のグループに参加する。
- 2 夫婦が相互に理解し合うために、夫婦カウンセリングを受ける。
- 3 飲酒行動をやめさせるために、専門医療機関を受診する。
- 4 過去の家族関係について洞察を得るために、精神分析療法を受ける。
- 5 ストレス発散のために、Hさんに協力してもらい外出する機会を増やす。

問題 51 次の記述のうち、J精神保健福祉士がHさんに提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Hさんが会社を退職し、長男の育児とGさんの世話をする。
- 2 Gさんが回復するまで母親に来てもらい、長男の育児に協力してもらう。
- 3 Gさんが回復するまで長男を乳児院に入院させる。
- 4 Hさんが勤務中は、長男を保育所に預ける。
- 5 Hさんが勤務中は、母子家庭等日常生活支援事業を利用する。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 52 から問題 54 までについて答えなさい。

[事 例]

Kさん(25歳, 女性)は, 高校卒業と同時に就職したが, 仕事が合わないという理由ですぐに退職した。その後, Kさんは専門学校に通い, 情報処理の資格を取得して再就職を目指した。しかし, パソコン技術の高さを買われて採用はされたものの, 要領の悪さや配慮のなさを度々指摘され, 職場の人間関係もうまくいなくなり離職した。Kさんは次第に被害的になり, 抑うつ感と不眠に悩む日々が続いたため精神科クリニックを受診したところ, 広汎性発達障害でうつ状態と診断された。診断内容を聞いて不安になったKさんは, 「これから自分はどうしたらいいのか」「もう働けないのか」と医師に訴えたため, 近隣のV就労移行支援事業所(以下「V事業所」という。)を紹介され, L精神保健福祉士が担当することになった。L精神保健福祉士との初回面接の際, Kさんは, 「自分は頑張って働いているのにいつも注意ばかりされる」と暗い表情で話した。(問題 52)

KさんはV事業所の利用を開始し, パソコン技術をいかして印刷作業プログラムで編集を担当することになった。Kさんはパソコン操作に集中して取り組む一方, 簡単な指示を誤解し, 他の利用者がそばで重い荷物を運んでいても手伝うことはなく, 挨拶もほとんどしていなかった。L精神保健福祉士はKさんの作業場面の課題を整理し, スタッフミーティングでKさんへの支援内容を決めた。(問題 53)

V事業所を利用して半年が経過し, Kさんは印刷製本を営むW会社で職場実習を行うことになった。W会社の担当者, Kさん, L精神保健福祉士の三者で話し合い, まずはKさんが簡単な梱包作業から始められるようにし, 状況を見て調整を図ることにした。実習を開始して数日後, L精神保健福祉士が職場を訪問すると, Kさんは仕事の手順や指示が分からず戸惑っている様子が見受けられた。そして, その日の帰り際にKさんは, 「私にわざと難しい仕事をさせている」とL精神保健福祉士に訴えてきた。そこで, L精神保健福祉士はW会社の担当者に対する働きかけを考えた。(問題 54)

問題 52 次の記述のうち、この時点でのL精神保健福祉士のKさんへの対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 就労に向けてKさんが利用可能な制度の概要を説明した。
- 2 職場で注意された内容を踏まえてKさんの問題点を確認した。
- 3 障害特性に留意しつつKさんの意向や考えを聞いた。
- 4 障害者雇用制度を活用した支援計画を立てた。
- 5 就労に向けて生活リズムを身につける必要性を伝えた。

問題 53 次の記述のうち、Kさんへの支援内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Kさんが飽きずに作業に取り組めるように、多様な作業メニューを用意し日替わりで提供する。
- 2 職場のマナーやルールを、ロールプレイで具体的に学習できる場を設定する。
- 3 1日の活動終了時にKさんがうまくできなかったことを振り返り、自分で改善点を考えるように促す。
- 4 パソコン操作による作業時間を段階的に増やし、Kさんのパソコン技能を更に向上させる。
- 5 Kさんに注意する際は、本人の気持ちを傷つけないように直接的な表現は控える。

問題 54 次の記述のうち、この時点でのL精神保健福祉士のW会社の担当者に対する働きかけとして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 なるべく多くの従業員が、適宜Kさんに指示を与えるように助言する。
- 2 仕事の手順表を作成し、Kさんが見える場所に貼ってもらうように依頼する。
- 3 実習を一時中断し、V事業所でKさんの課題を改善後、再開することを提案する。
- 4 職場の厳しさを知る良い機会なので、このまま見守ってほしいと要望する。
- 5 Kさんが得意なパソコンを活用した仕事が設定できないか相談する。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 55 から問題 57 までについて答えなさい。

[事 例]

Mさん(73歳、女性)のことでA民生委員が、保健所に勤務しているB精神保健福祉相談員のもとに相談に訪れた。Mさんは夫と共に商店街の一角で米屋を営んでいたが、2年前に夫を亡くし、米屋を廃業した。その後、一人暮らしをしていたが、約半年前から、物忘れがみられ始めた。連絡を受けた長女が同行し専門医を受診したところ、軽度のアルツハイマー型認知症と診断された。長女は義父の介護があり同居できないため、Mさんは単身生活を続けていたが、一週間前、外出したまま家に帰れなくなり警察に保護された。長年、Mさん夫婦と一緒に商店街活動をしてきた住民たちは、とても心配しているとのことであった。さっそくB精神保健福祉相談員は自宅を訪問した。Mさんは、「生活の中で困っていることは特になし、まだ誰かの世話にならなくても大丈夫です」と話した。また、「時々、泥棒に入られて物が盗られるんです。でも、いつもAさんに一緒に探してもらおうと見つかりますよ」とも言う。その話を聞いたB精神保健福祉相談員は、定期的に訪問をすることとした。(問題 55)

訪問終了後、A民生委員や、同じ商店街に住むMさんを心配する住民のところへ立ち寄り、話を聞いた。(問題 56)

その後Mさんは、再度、外出したまま行方不明になった。再び警察に保護されたこともあって、Mさんは長女に伴われて保健所を訪れた。そこで、B精神保健福祉相談員は、Mさん、長女、A民生委員、心配している住民たちと話合いの場をもった。長女は施設入所を希望したが、Mさんは自宅での生活を続けたいと強く希望した。住民らは、火の不始末による火災が心配だと言った。B精神保健福祉相談員はMさんへの個別的な支援を展開することと併せて、A民生委員をはじめとする住民たちによる支えや、不足している地域資源を新たに創り出すなど、Mさんを支える生活環境の整備も展開することを提案した。(問題 57)

問題 55 次のうち、B精神保健福祉相談員の行う定期的訪問の目的として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自立生活訓練
- 2 支援計画の作成
- 3 入院援助
- 4 家事援助
- 5 経過観察・見守り

問題 56 次のうち、この時点でのB精神保健福祉相談員の援助プロセスとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 アセスメント
- 2 プランニング
- 3 インターベンション
- 4 モニタリング
- 5 エバリュエーション

問題 57 次のうち、B精神保健福祉相談員が提案した支援の方法として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 コミュニティソーシャルワーク
- 2 コミュニティディベロップメント
- 3 コミュニティビジネス
- 4 コミュニティオーガニゼーション
- 5 コミュニティベースドリハビリテーション

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

[事 例]

Cさん(61歳、男性)は、6人きょうだいの末っ子として生まれた。小中学校時代は、口数が少なくおとなしい性格だったが、イライラすると店で万引きをしてしまう盗癖があり、何度か警察に補導されたこともあった。中学卒業後に就職するが、仕事は長続きせず、転職を繰り返していた。母親が死亡し、父親と二人暮らしになったことから、父親が勤務する工務店で一緒に働くようになり、何とか辞めずに勤めていた。しかし、幼少期からの盗癖は改善されず、25歳の時、執行猶予中に万引きで逮捕され、初めて刑務所に服役する。それ以後同様の行為で4回服役している。

Cさんが57歳の時、父親が死亡した。そのころから仕事に行かなくなり、また万引きをして逮捕され、懲役2年の実刑で5回目の服役となった。服役中に息苦しさや手足のしびれを訴え不穏になるなどして、刑務所の矯正医官より、知的障害とパニック障害と診断され投薬を受けた。きょうだい全員が出所後の受け入れや今後のかかわりを拒否していることから、刑務所のD福祉専門官が支援を開始した。(問題 58)

出所が近づき、知的障害もあることから、地域の支援機関につなぐことにした。Cさんの出所に向けてX地域生活定着支援センターのE精神保健福祉士が支援することになった。(問題 59)

E精神保健福祉士の支援により、出所と同時に生活保護を受給してアパートに住み、Y精神科病院に通院することになった。しかし、服薬がうまくコントロールできず、パニック障害の症状が頻発し、イライラ・不穏も強まり、通院先に任意入院することになった。入院後、規則正しい服薬により安定した。本人が退院したいと口にするようになったので、Y精神科病院のF精神保健福祉士が退院に向けて具体的な支援を開始した。(問題 60)

問題 58 次の記述のうち、この時点でのD福祉専門官の支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 通院処遇の申立てのため、「医療観察法」の説明を行う。
- 2 出所後の生活安定のため、指定特定相談支援事業者の説明を行う。
- 3 疾患の治療を優先するため、精神科病院の説明を行う。
- 4 精神保健観察の開始のため、社会復帰調整官の説明を行う。
- 5 犯した罪に対して反省するため、<sup>きょうかいし</sup>教誨師の説明を行う。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

問題 59 次の記述のうち、E精神保健福祉士が行う支援の手続きとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 裁判所の指示を受けて行う。
- 2 保護観察所の依頼を受けて行う。
- 3 D福祉専門官の指導を受けて行う。
- 4 きょうだいの同意を得て行う。
- 5 警察署の許可を得て行う。

問題 60 次のうち、F精神保健福祉士が退院支援を行う上で、Cさんに提案した社会資源として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 保護観察所
- 2 地域包括支援センター
- 3 グループホーム
- 4 更生保護施設
- 5 精神保健福祉センター